

『当たり前』を守る

校長 猪股清子



同窓会の皆様には、日頃から多大なご支援をいただき、深く感謝申し上げます。昨年は40周年記念事業に多くのご協力をいただき、生徒・保護者・教員一同の心に残る取り組みとなりました。

40期生となる卒業生を送りながら、これから学校が活動の指針とすることに ついて述べたいと思います。(つなげる 広げる 人づくり)

本校はこれまで、「地域 の課題に積極的に取り組む 人材を育成すること」を目標に掲げ、様々な活動を展開してきました。

その取り組みを土台に、今年1月15日、にかほ市と本校は連携協定を締結しました。それぞれ資源や機能を有効に活用し、活力ある地域社会を形成することを目的としています。

地域に出て行くことで課題を発見し、解決策を考えていく。そんな活動から、地元に残りたいと思う人材を育てていきたいと思えます。

ふたつは、にかほの水。2月3日、にかほつにおいて「若者がミスから描く未来討論会」が開催され、本校の生徒会も発表しました。3つの大学や高専の学生たちに混じっての参加で、正直どのような提案ができるか心配でしたが、でも自分たちが企画したマラソン大会を堂々とプレゼン

ンしている姿を見て、うれしきでいっぱいになりました。聞けば、最初は戸惑っていた生徒達が途中からは自主的に話し合いを重ね、プレゼンの練習もきちんとして発表に臨みまわす。機会「チャーン」が生徒を育ててくれたのです。

ふたつ前の大切さ。久しぶりのわくわくして読んだ小説の中に、こんな台詞がありました。「気づかないほど当たり前の中のもの、本当に大切なものがあっても知られず、人の絆もそうなんじゃないでしょうか。」絶え間の無い技術革新の中で、何もかもが無機質なものに置き換わっていくような不安を感じることがあります。また、少子高齢化の進行は、確実に社会の土台を揺るがしています。しっかりと守る意識が無ければ、今まで当たり前になっていたものを残すことができないかもしれせん。環境も人とのつながりも「同窓の連帯を支えたい」

これから地域の方々と共に活動する上で、同窓のつなぐにしたいのは、同窓のつながりです。後輩たちに後ろ姿を見せつつ、厳しく時々温かく、社会の中で育てていってあげたいと思えます。今年度7929本になった樹と、これから後継に続く樹が寄り添って故郷の大地を支えていきますように、心からお祈りいたします。

二つの行事から見る 仁賀保高校の今後について

「連携協定締結」



調印式では、市川雄次にかほ市長と猪股清子校長の挨拶に続き、来賓を代表して県議会議員佐々木雄太氏から挨拶をいただきました。

続いて生徒会長熊谷李桜さんが「にかほ市の未来について」という題で意見発表を行いました。

その後超人ナイターが登場、激励のメッセージを送っていたきました。最後に記念撮影をして調印式は終了しました。

平成三十一年一月二十五日、にかほ市と仁賀保高校は連携協定を結び、調印式を行いました。これは相互の密接な連携のもと活力ある地域社会の形成と発展及び人材の育成に寄与することを目的としています。仁賀保高校はにかほ市唯一の高校として地域貢献をすすめてきたが、この協定締結により一層の連携を強めていくこととなりました。

具体的には、

- (1) 地域を担う人材の育成及び教育に関する事
 - (2) 町作り及び地域課題の取組に関する事
 - (3) 地域福祉の向上に関する事
 - (4) 安全安心な地域作りに関する事
 - (5) その他前条の目的を達するための必要な事項
- を行うっていくこととなります。



「にかほ市と秋田県立仁賀保高等学校との連携協定締結調印式 2019.1.15」

市役所でも若者の意見や活動に関する部門を設置したいとする向きもある聞き、将来は仁賀保高校卒業後に市役所職員として地域に貢献する人材を育てていくと考えています。

佐々木雄太県議会議員は、二月十四日の第一回定例会(2月議会)の代表質問

間でも高等学校総合整備計画について代表質問を行っており、仁賀保高校の継続を推し進めていただいております。

『未来討論会』

また、二月三日にはにかほつにて「若者がミスから描く未来討論会」が開かれ、生徒会役員が高等・大学の学生たちとともに今後にかほ市のあり方について水をテーマに意見発表を行いました。これには市長のほか飛良泉本舗専務取締役齋藤雅昭氏、東北大学特任教授加藤裕之氏、佐賀市役所保健課長 佐賀里の広報アドバイザー 諸富里

子氏がコメントターとして参加されました。

仁賀保高校生徒会では、「にかほ市の『水』を見つめ直し」をテーマとして「水」をテーマとしたイベントを企画しました。にかほ市上郷地区の水に関する史跡名所を巡るマラソン大会を考え、現在廃校となっている旧上郷小学校をスタート・ゴールとすることで施設の有効利用も視野に入れました。そしてこれらの企画に高校生がボランティアとして参加し、賞品・参加費・提供飲料水などを水に係わるものに限定するなど、十分に活用されていない水資源の活用方法として提案を

行いました。

この討論会には先述通り高等専門学校・大学の学生も参加しており、コミュニケーションパスの時刻変更・拠点設置・無人バス運用という意見や下水処理方法の変更による処理水の活用、イメージキャラクター活用による田園都市構想、経営学の視点からの魅力創出などが提案されました。発表の後はコメントターからの意見がありました。発表の参加者からはスマホで意見表明できるシステムが構築されており、次々とコメントが寄せられていました。

このコメントからも仁賀保高校の発表は好評価が感じられ、最後にかほ市長からも各提言を前向きに

編集後記

同窓会報第五十五号をお届けします。

昨年度、創立四十周年記念行事を実施して仁賀保高校は新しい時代に入っています。ところが、今年になって記事にもあるとおりにかほ市との連携協定を結び、地域としての役割を一層強めています。ただ、今年度の一年生から一学年三クラスとなつて生徒も先生方も少なくなつてきており、学校行事などの運営も今までと同じでは立ちゆかなくなつてきています。しかし、それを衰退としてではなく、古いやりを改め新しいことにチャレンジするきつかけとして捉えています。

具体的には、eスポーツへの参加や学校行事の変更を進めています。eスポーツについては新聞やニュースでもたびたび報道していたというところから、ゲームをスポーツとして参加するということ、来年度の茨城国体で実施される「全国都道府県対抗eスポーツ選手権2019 I B A R A K I」への出場を目指しています。都道府県予選を突破し全国大会に出られるよう、体育系部活動並みに練習を重ねていくと聞いています。ゲームをeスポーツと呼んでいいのかわかりませんが、すでに国民体育大会の文化プログラムに位置づけられるべきとした競技として認定される時代になりました。

学校行事については、学校の様子を地域にアピールするため、学校祭をいかはつとで開催できないかと考えています。また、体育祭や球技大会などもこれら生徒会を中心に工夫していくとしていきます。

このように仁賀保高校が新しい歴史を踏み出すとしているとき、われわれ同窓会も設立四十周年を迎えようとしています。同窓生の皆さんもぜひ新しい仁賀保高校、新しい同窓会に力をお貸しいただければと考えています。よろしくお願ひします。

